

第6回おおさかカーボンニュートラル推進本部会議 議事概要

■日 時： 令和7年12月24日(水) 16時30分から17時00分まで

■場 所： 大阪府庁本館

■出席者： 知事、副知事、各部局長等

■議事概要

◇吉村知事

- ・今年は大阪・関西万博があって、本当に多くの人が万博に来てくださった。成功することができたのも、多くの人のご協力があって実現できたと思っている。
- ・万博開催期間中も非常に暑かった。この夏も大変猛暑が続き、全国各地で観測史上最高気温を更新するという日々が続いた。府内においても熱中症警戒アラートが連日出されているというような状況だった。
- ・そういった状況の中で、気候変動に対する危機感がさらに強くなったところでもあり、さらに対策を進めていく必要がある。
- ・万博も会場に大屋根リングがなければ、万博の開催を維持することが難しいくらいの日本の暑さ、気候変動が生じていると思っている。
- ・そして、万博会場で、ペロブスカイト太陽電池、EVバスのワイヤレス給電技術、CO₂吸収型コンクリート等を含め、様々なカーボンニュートラルに関する最先端技術が披露されたところでもある。
- ・さらに、EVバスを活用したクールスポットや放射冷却素材を活用した日傘やテント、パビリオンそのものなどがあった。万博においては、こういった暑さ対策の新しい技術が披露され、体感することもできた。また、マイボトルを持ち歩き、行列をつくって給水機を利用し、それが見慣れた光景になるなど、脱炭素に対する行動の定着というのも万博において見ることができ、取組が進んだと認識している。
- ・こういったレガシーをしっかりと活用して、カーボンニュートラル最先端技術を加速化させていく、そして暑さ対策の実装や脱炭素の行動変容をさらに進めていくことが重要である。
- ・本日は、府として、今年度に地球温暖化対策実行計画を策定するにあたり、2050年カーボンニュートラルに向けて、国を上回る目標を定め、その達成に向けた具体的な施策を議論したい。

◇事務局より資料1「大阪府地球温暖化対策実行計画（案）」について説明

<出席者の発言>

◇原田環境農林水産部長

【府域の温室効果ガス排出量の削減目標】

- ・今回の削減目標は非常に高いものであるが、2050年カーボンニュートラルの実現に向

けては不可欠と考えている。

- ・この目標の達成に向けては、万博レガシーを最大限活用し、関係部局と連携して次世代型太陽電池などの最先端のカーボンニュートラル技術を社会実装するとともに、脱炭素なまちづくりを進めていきたい。
- ・また、気候変動対策条例による大規模事業者の排出削減の他、中小事業者の脱炭素経営、万博を機に定着したマイボトルなどの府民の脱炭素行動変容などをさらに促進し、府民、事業者、行政などあらゆる主体の参画のもとで取り組んでいきたい。
- ・各部局におかれては、地球温暖化対策実行計画に盛り込む施策を推進いただき、脱炭素と大阪の経済成長を両立できるよう、ご協力をお願いしたい。

【ふちょう温室効果ガス削減アクションプランにおける削減目標】

- ・ふちょう温室効果ガス削減アクションプランについて、府庁は、府内で6番目に温室効果ガスの排出が多い大規模事業者でもあることから、国を上回る目標を掲げて取り組む必要があると認識している。
- ・このため、第4回の本会議で決定した「府内率先取組みのさらなる推進」で掲げた取組を着実に進めることが重要。その一つの「ペーパーレス化」は、各部局にご協力いただき、令和6年度は前年度比6.9%(A4の紙で換算すると約590万枚)削減された。引き続きご協力ををお願いする。

◇馬場商工労働部長

【次世代型太陽電池をはじめとしたカーボンニュートラル先進技術の社会実装促進】

- ・重点施策1の社会実装促進に向けてはカーボンニュートラルを支える製品の供給が必要であり、大阪産業の振興に向けて、府内企業がそのメインプレイヤーになるよう取り組むことが重要。
- ・例えば、ペロブスカイト型太陽電池で言えば、府内企業が既に量産化に着手しているフィルム型については、環境農林水産部とも連携して、実装の促進に取り組んでいくことが大事だと考えている。
- ・加えて、太陽光パネルからの置き換えも可能なタンデム型、耐久性の高いガラス型についても、府内企業が開発をリードしており、これらの企業を支援するという意味合いで用途の開発や、量産化に向けた取組みを支援するため、メーカーの技術ニーズに対するオープンイノベーションやサプライチェーンの構築に向けた府内企業とのマッチングなどに取り組んでいきたい。

【グリーントランസ്ഫｫーメーション(GX)を通じた脱炭素経営の促進】

- ・重点施策4について、商工労働部では、商工会・商工会議所への活動支援を行っており、今年度は「中小企業向けのセミナー」の開催を各商工会・商工会議所等と連携して11団体15回の開催を予定している。
- ・内容についても、周知啓発レベルだけではなく、サプライチェーン全体で中小事業者に対して脱炭素化を求められることが多いが、どのように対応していくか、あるいはSBTといった国際認証取得などに対して、企業経営戦略上どのように使っていくか、脱炭

素に向けてどのように取り組むことがいいのかなど、単なるコストアップでやらないといけない状況からそうではない形にしていくために、実践的にどう取り組むかというセミナーを実施するようにしている。

- ・今後、各商工会・商工会議所の身近な指導員も、より深く脱炭素経営が語れる人材が増えるよう、支援人材育成についても環境農林水産部とともに取り組みたい。
- ・関連して、今後の取組に対する意見となるが、府内企業の成長と脱炭素の取組を両立できるような柔軟な評価を進めてほしいというのが産業振興部局としてのお願い。
- ・現在、環境農林水産部において制度構築中である、サステナビリティ・リンク・ローン（SLL）について、企業の温室効果ガス排出量削減の取組に対する評価を活用することとされている。一方で、温室効果ガス排出量の「総量削減」が目標となると、成長していく企業や生産量を拡大しようとする企業においてはCO₂排出量の削減割合を頑張っても総量は増えてしまうということも起こると考えている。総量削減だけでなく、単位あたりのCO₂排出量の削減（効率改善）も評価されるよう、ご検討いただきたい。

◇美馬都市整備部長

【ZEB化推進方針に基づく取組の推進】

- ・「ふちょう温室効果ガス削減アクションプラン」のうちの一つの取組として、府有建築物の新築におけるZEB化を進めている。具体的には、今年度の新築のZEB化の状況としては、生野警察署、生野支援学校、新工業系高等学校の3つの施設を工事契約して、これから進めていくところ。
- ・併せて、寝屋川高等学校、池田保健所、（仮称）夢洲警察署の3施設においては、「ZEB化推進方針」に基づいて設計業務を進めているところ。
- ・既存施設でもZEB化について取り組んでおり、西大阪治水事務所においてESCO事業を活用し既存施設のZEB化第一号として、令和8年度から運用開始を予定している。
- ・新設より既存施設のZEB化の方がハードル高いため、既存施設のZEB化を今後どこまで進められるのか検討が必要だが、新設については可能な限り「ZEB化推進方針」に基づいて設計を進めて、カーボンニュートラルに資するような建物に切り替えていくことを進めていきたい。

◇中小路大阪港湾局長

【大阪港・堺泉北港・阪南港港湾脱炭素化推進計画に基づく施策推進】

- ・2050年のカーボンニュートラルポートの形成に向けて、令和6年3月に大阪港、堺泉北港、阪南港の3港が一体となった大阪“みなと”における「港湾脱炭素化推進計画」を策定した。
- ・現在、港湾エリアにおいて、照明施設のLED化、クレーンをはじめとする港湾荷役機械の低炭素化・脱炭素化、護岸・干潟における藻場造成によるブルーカーボンの創出等、脱炭素化の推進を行っている。こうした取組により、国のCNP認証を取得し、みなとのブランド力の向上を図り、荷主企業や船会社から「選ばれるみなと」であり続けるた

め、さまざまな施策を展開しているところ。

- ・一方、大阪みなどの特徴として、ターミナルの背後に集積する事務所・工場からのCO₂排出量が港湾エリア全体の約9割を占めており、民間事業者による脱炭素化の取組が不可欠となっている。
- ・そのため、先ほどご説明のあった「カーボンニュートラル先進技術の社会実装促進」など、「大阪府地球温暖化対策実行計画（案）」における重点施策の推進が効果的であり、我々の「港湾脱炭素化推進計画」の推進にあたっても、大きな後押しになると考えている。
- ・今後も、「港湾脱炭素化推進計画」の目標達成に向けて、府内関係部局および民間事業者との連携をさらに強化し、さまざまな取組を進めていく。

◇尾花大阪都市計画局長

【市町村のまちづくりにおける脱炭素化の促進】

- ・まちづくりにおける脱炭素化の方向性としては、「大阪のまちづくりグランドデザイン」において、エネルギーの面的利用や再生可能エネルギーの導入などにより、「安全・安心でグリーンな社会の実現」をめざすと位置付けている。
- ・主な取組としては、堺市が大阪市の御堂筋エリアなどとともに「脱炭素先行地域」として国の採択を受けており、具体的には、泉北ニュータウンの府営住宅の建替えに伴って生まれる用地において、環境配慮型住宅の誘導などによるゼロエネルギー・タウンの実現を推進している。
- ・また、うめきた2期でも、業務ビル等において熱エネルギー施設を効率的に運用し、面的に熱融通するとともに、温冷廃熱を活用する帶水層蓄熱という方式で全国初の実装を行うなど、先進的な取組が行われている。
- ・さらに、万博跡地を含む夢洲2期においても、「夢洲第2期区域マスタープラン」に基づき、カーボンニュートラルやゼロエミッションの実現に向けて、万博を契機とした新技術の実証・実装に取り組んでいきたい。
- ・今後、市町村と共有する「まちづくり指針」や広く開催するセミナー・シンポジウムにおいて、電動モビリティや次世代型太陽電池等をはじめ、本日紹介のあった様々な施策事例や支援制度等について、情報発信を拡大しながら脱炭素の実現に向けて、まちづくりとしてもしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

◇森岡副知事

- ・商工労働部長の意見とも関連するが、個別の企業というよりは経済活動全体について、大阪府も当然今後「Beyond E x p o 2025」などで成長を目指しているが、まず経済成長とCO₂排出量との関係、また実行計画では経済成長の影響をどの程度見込んでいるのか。

◇原田環境農林水産部長

- ・今回、目標の設定にあたり、経済成長に伴うCO₂排出量の増加を見込んでおり、経済指標等から推計している。その際、「Beyond Expo 2025」の経済成長の伸びを踏まえた算定・推計をしており、2035年度には対策を行わない場合は現状値（2022年度）の排出量から約10%増加すると見込んでいる。今回の目標値については、その10%を見込んだうえで重点取組等により達成できるものと考えている。

◇事務局より資料2「公共調達等における脱炭素評価の基本方針（案）」について説明

＜出席者の発言＞

◇市道総務部長

【公共調達等における脱炭素評価の基本方針に基づくガイドライン等改定】

- ・公共調達は対象範囲がかなり広いということもあり、この間、公共調達WGでも環境農林水産部での試行実施を踏まえながら検証を行ってきた。その結果、令和8年度の発注分から総合評価落札方式等をはじめとして脱炭素評価を行いたいと思っている。
- ・公平性という観点から、今年度中に規定整備をきっちりと行い、来年度の入札分から対応させていただきたいと考えている。
- ・その中で、特に留意している中小企業については、認証取得しようとすると費用と時間がかかるため、中小企業の過度な負担にならないという観点からまずはソフトランディングで大規模事業や大企業を対象に実施していきたい。いずれは中小企業もと考えているが、まずは大企業からと考えている。
- ・実施にあたって、入札の関係はほぼすべての部局に関係するため、環境農林水産部とも連携して、発注部局に意義と規定改正の内容、評価方法等をきっちりと周知をし、円滑な導入ができるよう取り組んでまいりたい。

◇美馬都市整備部長

【建設工事等における脱炭素評価の実施】

- ・都市整備部は発注を数多く実施しており、その発注部局として国や建設業界とも意見交換しながら、来年度から総合評価落札方式のうち、資料にあるとおり、一部の大企業の工事に限定してSBT認定等を評価の一つとして入れる形で進めている。
- ・総務部長からのご意見にもある通り、SBT認定取得に費用がかかるため、今、AAランクの大きな企業でもSBTを取得しているのが30%くらいである。毎年度、入札方式は繰り返し検証しレベルアップを図っているところだが、来年度まず脱炭素評価を取り入れて、次にどのように拡大していくのか検証しながら進めていきたい。

◇事務局より議題3「その他」について

- ・実行計画は、今回決定した削減目標や重点施策等を盛り込んだ案を作成し、年明けにパブリックコメントを実施し、年度内に改定予定。

◇吉村知事

- ・大阪府として、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、国を上回る削減目標として 2035 年度 62%、2040 年度 75%の削減を打ち出すこととしたい。
- ・また、今日は様々な議論があった。次世代型太陽電池や電動車等の具体的な導入目標を設定し、その達成に向けた重点施策を進めていきたい。
- ・ペロプスカイト太陽電池をはじめとした、万博で披露された様々なカーボンニュートラルに関する先進技術の社会実装を進めていく。そして、脱炭素まちづくり、府民の主体的な脱炭素行動や、競争力強化につながる脱炭素経営の促進など、「脱炭素に向けた取組」、またそれに合わせた「経済成長への取組」について、各部局が連携して、全庁をあげてしっかり取り組んでいってもらいたい。
- ・また、公共調達においては、脱炭素に取り組む事業者を評価するシステムを導入して進めていこうと思う。
- ・カーボンニュートラルの先進都市ということは、「副首都・大阪」をめざすうえでも重要な要素だと思っており、全庁あげて進めていくのでよろしくお願ひしたい。